

会場設営進む

のべおか天下一薪能

中高生計800人が協力

10月12日に行われる第23回のべおか天下一薪能(てんがいちたきぎのう)に向け、会場となる延岡市の延岡城址(し)―城山公園―の丸広場では、ボランティアによる設営作業が進んでいる。

設営作業は14日から始まり、週末を中心に多くの中学生、高校生ボランティアが参加。23日には39人が作業に加わり、主催するNPO法人のべおか天下一市民交流機構のメンバーと一緒に観客席の床板などを設置した。床板は1枚約30キロと重く、生徒たちは同交流機構メンバーからサポートしてもらいながら、けがをしないよう

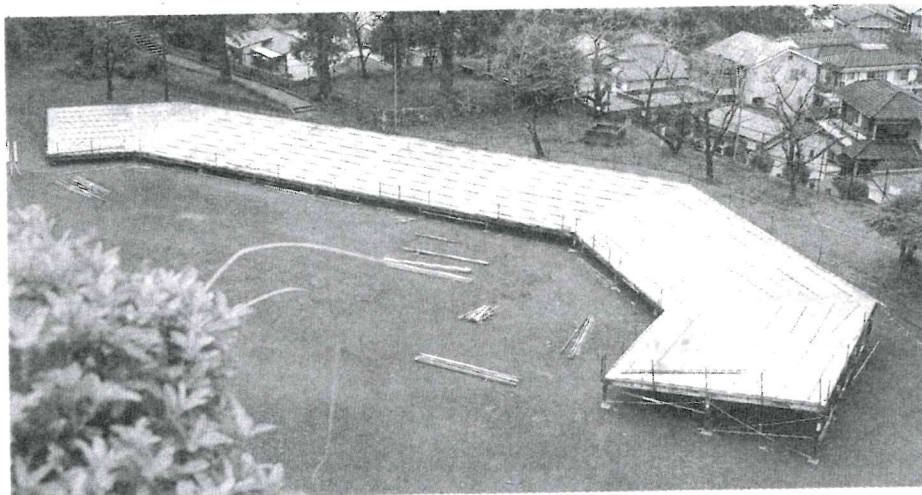
に2人一組で声を掛け合い、1枚ずつ鉄骨の骨組みの上にはめ込んでいった。

さん(延岡中3年)は「地域貢献につながればと思って初めて参加しました。床板はとても重かったのですが、こつこつと一人一人の力で会場がつけられて

「設営隊長」として作業を引っ張る同交流機構メンバーの大崎光芳さん(59)は「毎年このことですが、設営作業は中学生と高校生の力なしには成り立ちません。涙が出るほどありがたい」と感謝した。

また昨年は、台風による強風で設営途中だった観客席などが被害を受け、やむを得ず会場を延岡総合文化センター大ホールに変更した。先日の台風17号では、一度はめ込んでいた床板を21日に全て取り外して備えた結果、被害はなかった。大崎さんは「皆さんの力を借りて、今年はこちら(城山公園)でやりたいですね」と話した。

今年には本番後の撤去作業を含め、中学生と高校生のボランティア計約800人の参加を見込んでいるという。



床板がすべてはめ込まれた客席

2019.9.27